

森友

SHINYU
vol.06

住友建機の林業機械 LINEUP



ハーベスタ仕様 ストロークハーベスタ SH135X-6 25SH

進化した作業性、安全性、経済性。
オプションも多彩にラインナップ。

ストロークハーベスタ KESLA 25SH

立木の伐倒から枝払い、測尺、玉切り作業まで1台で可能です。また、傾斜地での材の掴み作業に威力を発揮する無段階チルト機構、ハーフトロークも容易なストローク機構を搭載。



木材グラップル プロボ仕様 SH75X-3B

高速操作から微操作までスムーズに行える
プロポーションナルスイッチ搭載。

レバーのプロポーションナルスイッチの操作量に応じてグラップルの旋回速度や開閉速度が変化し、滑らかな操作が可能。また、切替スイッチひとつでグラップルモード、ウインチモードのセレクトが簡単に行えます。



バックナンバー

森友

SHINYU
vol.05



株式会社グリーン・シャイン
鳥取県
SH75X-3B



有限会社秋田グリーンサービス
秋田県
SH75X-3B



つがる森林組合
青森県
SH135X-3B



森友 vol.04

山崎木材
広島県
SH135X-3B

群馬県森林組合連合会
群馬県
SH120LC-5SM

林業の本場から
トップ会談の舞台裏
フィンランド林業展体験記

美山町森林組合
福井県
SH135X-3B

北海道ニツタ
北海道
SH135X-3B



森友 vol.03

上野物産
鹿児島県
SH75X-3B

長浜市伊香森林組合
滋賀県
SH135X-3

神子沢林業
山梨県
SH120-3

木材商秋田林業
徳島県
SH120-5

竹田木材
石川県
SH135X-3B

よつばフォレスト／浅野産業
北海道
SH135X-3B



森友 vol.02

瀧瀬林業
高知県
SH75X-3

松阪地区木材協同組合
三重県
SH135X-3B

秩父広域森林組合
埼玉県
SH75X-3B

西垣林業
奈良県
SH200LC-5SM

日和田林産
岐阜県
SH135X-3

三井物産フォレスト
北海道
SH120-3



森友 vol.01

有限会社 萬造寺林業
鹿児島県
SH135X-3

美山村森林組合
和歌山県
SH75X-3B

三次地方森林組合
広島県
SH75X-3

有限会社 二和木材
岩手県
SH120-3

Contents

林業現場レポート



五島森林組合

長崎県
SH135X-3B
NANSEI CM-40ZN



四万十町森林組合

高知県
SH75X-3B
KESLA 20SH



飛騨高山森林組合

岐阜県
SH120-5
イワフジGPI-40TC

住友建機の林業機械 LINE UP



住友建機株式会社

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1 (ThinkPark Tower) ☎03-6737-2600
ホームページアドレス <http://www.sumitomokenki.co.jp>



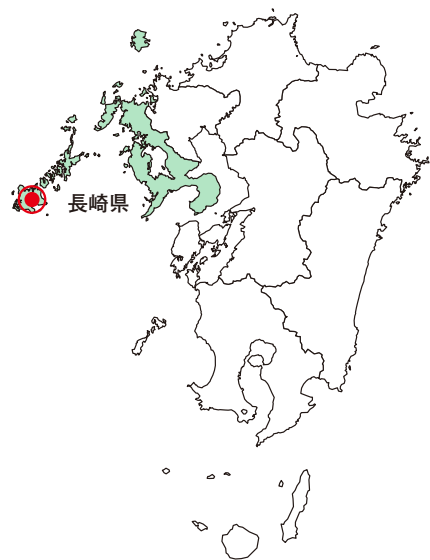
五島列島唯一の林産事業者として 地産地消のさらなる活性化に挑む



SH135X-3B (NANSEI CM-40ZN)

五島森林組合

住 所：長崎県五島市吉田町3110-8
T E L：0959-72-5336
設 立：平成14年8月



離島の苦勞に屈することなく 林産事業を推進

大小合わせて140あまりの島々が連なる五島列島では、50年ほど前からスギやヒノキの植林が始まった。やがて、スギの植樹が減り、現在では全体で約8割がヒノキとなっている。そんな五島列島で林産が始まったのは平成11年。切り捨て間伐から利用間伐へと移行した林野庁の方針と足並みを揃えるように、五島森林組合でも機械化を推進し林産への取り組みを開始した。しかし、長崎と海を隔てた五島列島は、林産において決して恵まれた環境ではないという。大町組合長は離島ならではの苦勞をこのように語る。

「五島列島はもともと強風にさらされる土地柄であるうえ、台風の影響も強く受けてしま

うため、年間の生産量は3000㎥、1ha当たりの生産量も35㎥にとどまります。長崎本土でしたら1ha当たり80～90㎥は採れますので、同じ作業をしていても非効率と言わざるを得ません」。

しかも、それらすべてが製品になるわけではない。「製品として売れるのは1/3程度で



大町一利代表理事組合長



佐々野勝弥業務第2課長

すね。残りはほとんどが地域の畜産業者へ飼料として販売しています。せっかくのヒノキをおがくずにして売るのは本望ではありませんが、本土への輸送費を考えたらこのほうがまだ利益率は高いんです」。長崎本土への輸送費は、トラック1台分で75,000円。これがネックとなり、木材はすべて地元で売さばかなければならない。ここにも、離島の厳しさが現れている。

地産地消の活性化に 建設機械は必要不可欠

しかしここ数年、五島列島で唯一林産を行っている五島森林組合の実績が地元でも評価され「地元の木をもっと積極的に使おう」という地産地消の気運が高まってきた。大町組合長は、その風潮に頬を緩ませる。

「地元の小学校がまもなく建て替えを行うのですが、校舎に五島列島の木を使いたいという話を持ち上がっています。約200㎥のヒノキをフローリングに使用する計画なのですが、私たちもその完成を楽しみにしています」。



メンテナンスを担当している
垣深建機サービスの垣深等代表

建機サービスより住友建機のSH120をはじめ、林業機械を導入し一気に機械化を推進した五島森林組合では、平成26年にSH135と南星のプロセッサを追加。このプロセッサを選んだ理由は、地域特有の“枝の太さ”にあるという。

太い枝を難なく落とす 5枚刃の力を実感

「この地域のヒノキは平均12～13mと樹高は低いのですが、枝は太くしっかりとしている。この枝を払うには、通常の3枚刃では少々約不足なんです。南星のプロセッサは5枚刃ですので、太い枝も難なく落としてくれる。この力強さが最大の決め手でした。また、測長の誤差が非常に少ない点も魅力です」と語る佐々野課長。

一方、現場で操作を担当する嶋さんは、実際に操作した印象をこのように語る。「5枚刃のせいか、枝の落とし残しは少ないですね。パワーがある証拠だと思います。また、住友建機のベースマシンは林業用に開発



されているので、南星のプロセッサとの相性の良さも抜群です」。

現在、五島森林組合管内の

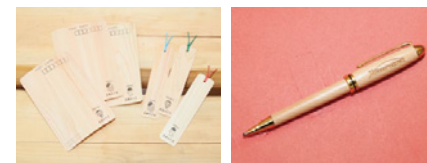
オペレータの嶋さん



森林所有者は625軒。高齢化により、山への意欲を失っている地権者も多いという。そんな現状を憂う大町組合長は、今後のビジョンをこのように語った。

「個人が山の整備を行うことは現実的に不可能ですので、地権者に代わって整備できるのは当組合しかありません。これからは林産事業を推進しつつ、いつかは補助金に頼らず自立して生産性を上げられる基盤を構築し、少しでも地権者に還元することが我々の使命と考えています」。

●レポート：西九州支店 廣田重人



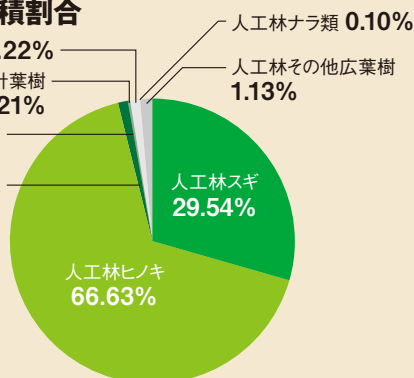
特産である五島ひのきで作られたハガキやボールペン

長崎県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：104,849ha
(人工林の主な樹種)

- スギ：30,968ha
- ヒノキ：69,863ha
- マツ類：1,209ha
- カラマツ：19ha
- クヌギ：1,279ha
- ナラ類：107ha

人工林クスギ 1.22%
人工林その他針葉樹 0.21%
人工林カラマツ 0.02%
人工林マツ類 1.15%



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の現況)
引用元：林野庁HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>



より効率的で安全な林業を実現し 未来を担う若者を育成したい



SH75X-3B (KESLA20SH)

四万十町森林組合

住 所：高知県高岡郡四万十町大正473-1
T E L：0880-27-1101
設 立：平成24年4月



若者を林業に定着させるには 機械化が不可欠

四万十町森林組合前身は、昭和27年に合併された大正町森林組合。平成18年の大正町、十和村、窪川町の合併により町名が四万十町となったことから、平成24年に現在の名称となった。この地域で中心となる樹種はヒノキで、全体の7割を占める。なかでも“四万十ヒノキ”と呼ばれるこの地域特有のヒノキは、薄紅色の美しい色調と香りの豊かさが特徴で、古くから神社仏閣の建築に珍重されているという。

現在、同組合は2988名の組合員と135名の従業員で構成され、管理する山林の面積は56000ha。年間生産量は23000㎥にのぼる。田村専務理事は「この町の林業を守り続けていくには、若者の育成と定着が何より

も大切」という理念のもと、若者が働きやすい環境、より安全に働ける環境づくりに心血を注いできた。その最たる取り組みが、林業の機械化だ。

「当組合では平成8年から機械化を推進しているのですが、最大の目的は若い人が林業に定着できる環境づくりでした。林業の未



田村 耕一 専務理事



四万十町のきで建築された四万十町役場の本庁舎

来を切り開くのは若い世代です。しかし、従来の林業にはどうしても“過酷で危険”というイメージがつきまとっている。それを払拭するには、機械化が不可欠と考えたんです」。

KESLA導入により 一人当たりの生産量が倍増

林業機械の導入により、労力の低減や作業効率の向上を実現し、当初の目的へ大きく前進した四万十町森林組合。そして、それらをさらに加速度的に発展させる出会いが訪れた。

「四国内で展示会が行われた際に、はじめて住友建機のKESLAに試乗させてもらったんです。以前から存在は知っていましたが、どうも動きが遅いという印象があった。しかし、実際に乗ってみたらそれが勘違いだったことに気づきました。同じ会場で他社のハーベスタにも試乗したのですが、もうこ



れ以外には考えられませんでしたね」。

これをきっかけに、平成21年に導入。「以前は、一人当たり2㎥が限界でした。ところがKESLA導入後は全部機械で処理できるようになり、一人当たりの生産量も4㎥に倍増。年間の生産量も飛躍的に向上しました」。

その具体的なメリットを、田村専務理事からこのようにご評価いただいた。「たとえば、斜面下に落ちた丸太をその場で持ち上げて造材するといった作業は他の機械には難しい。また、ヒノキの太い枝を落とす力もKESLAならではの持ち味といえるでしょう。この機械を導入して以来、ハーベスタの導入を検討している知人には積極的にすすめるようにしていますよ」。

日本の林業は、 まだ試行錯誤を続けている段階

現在はKESLAをはじめハーベスタを5台、ショベル系林業機械を25台、フォワーダを4台、そのほか林内作業車を6台保有している四万十町森林組合。今後もさらに機械化を推進することで、大幅な生産量向上を視野に入れている。

「現在は年間で約23000㎥の生産量をあげているのですが、機械化をさらに推進すれ



左から岡本さん、中平さん、濱田さん

ば比較的早い段階で30000㎥の大打を突破できると考えています。生産量が増えれば利益も拡大し、組合員への還元もより大きくなる。そうすることで、目標の“若者の定着”を果たすことができると信じています」。積極的にIターン・Uターンを受け入れ、県外からの希望者も後を絶たないという。これからの若者を積極的に雇用し、林業の後継者を育てていきたいからこそ、その要となる林業機械への思い入れも強い。

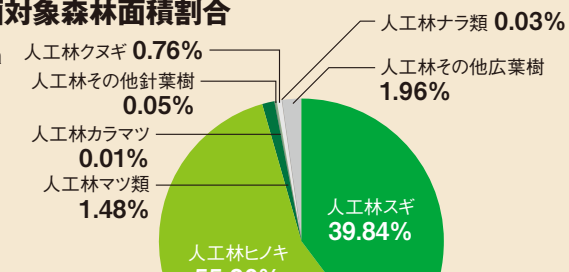
「海外の林業の歴史は200～300年。それに比べて、日本の林業はまだ始まったばかりです。業界全体が試行錯誤を続けている段階といえるでしょう。林業機械に関しても日本の林業に合った機械は日本にしかつくれないはず。住友建機さんには期待しています」。

●レポート：四国支店 小野健次郎

高知県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：389,577ha
(人工林の主な樹種)

- スギ：155,214ha
- ヒノキ：217,636ha
- マツ類：5,781ha
- カラマツ：54ha
- クヌギ：2,959ha
- ナラ類：109ha



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の現況)
引用元：林野庁HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>



森林への理解・関心を深めながら 地域ぐるみで飛騨の山を守っていききたい



SH120-5 (イワフジGPI-40TC)



SH135X-3B (KESLA25RHS mkII)

飛騨高山森林組合

住 所：岐阜県高山市清見町三日町187-1
T E L：0577-68-2221
設 立：平成17年6月



参加型イベントにより

人々の森林への関心を誘引

約23万5千haと東京都の全面積に匹敵する森林を管理する飛騨高山森林組合。これほどの規模を誇る同組合においても、状況は決して楽ではないという。「木材そのものが国際価格になってしまい、チップ材にしても集成材にしても輸入材の価格には太

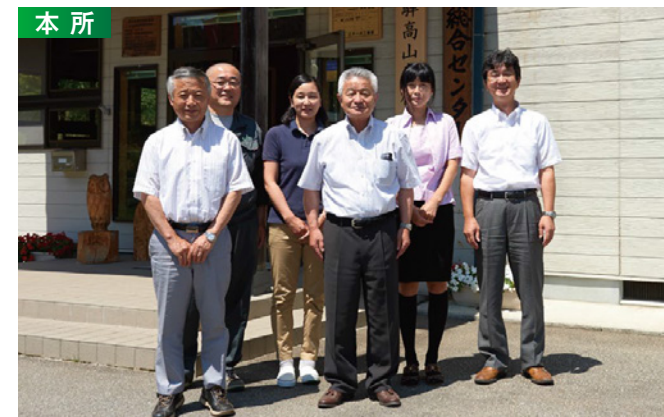


内木彦治代表理事組合長

刀打ちできない。国からの補助金だけでは、とてもやっていけない状況です」と、内木組合長は表情を曇らせる。また、山や木に対する人々の関心の薄さも大きな課題のひとつ。そこで高山市と連携し、子供連れの家族などが山へ入って木に親しんでもらうためのイベント『森森体験隊（もりもりたいけんたい）』を3年前から毎年



阪本太森林事業部長



左から水口部長、阪本部長、小林さん、内木組合長、中井課長補佐、平戸参事



左から松澤さん、石谷さん、中田支所長



左から梶山係長、平戸係長、蔵満さん、牛山さん、柴田支所長、柴田さん



前列左から向畑課長補佐、朝原さん 後列左から新井さん、丸山さん、小野さん、船渡さん、新井さん(枠内 下西支所長)

実施。森の間伐体験をはじめ、丸太切りや薪割り体験、チェーンソーアートの実演などが行われ、普段あまり見ることのない林業機械を目の当たりにした子供たちからは歓声が上がっているとのこと。

機械の維持費の平準化に 「プロメンテ」は有意義

また、平均で約30度にもおよぶ急峻な地形に応じた路網整備を行うために、低コストかつ生産性の高いシステムの確立にも積極的に取り組んでいる。阪本部長は「その核になるのが高性能機械化の導入」と語る。「合併前から8つの組合それぞれに機械化は進んでいたのですが、合併後に皆伐から利用間伐主体の林業に切り替わったこと、また、路網整備の推進などによりさらなる機械化が求められ、現在ではショベルベースの林業機械が30台、フォワーダが7台という大規模な構成になっています」。現在所有する30台の林業機械のうち、最近導入した10台は住友建機製であり、そ

のすべてにメンテナンスサービス「プロメンテ」を契約。阪本部長はその理由を「初期費用を抑えるためにレンタルを利用し、また、機械を常に万全な状態で使用できるようプロメンテを契約しました。突発的な故障の際も保証が用意されているので、年間維持費の平準化にも役立ちますからね」と語る。

最も大切なのは 「健全な森林」を維持すること

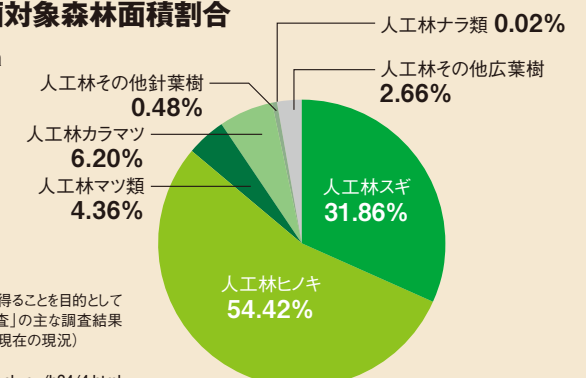
最後に、今後への展望をこのように語っ

●レポート：飛騨支店 溝口博

岐阜県の樹種別計画対象森林面積割合

人工林総面積：384,517ha
(人工林の主な樹種)

- スギ：122,491ha
- ヒノキ：209,262ha
- マツ類：16,747ha
- カラマツ：23,854ha
- クヌギ：1ha
- ナラ類：85ha



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである(平成24年3月31日現在の現況)
引用元：林野庁HP
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.html>